

大学横断的かつ競技横断的統括組織

(日本版N C A A) 創設事業 (大学スポーツ振興の推進)

成果報告書 (最終報告書)

【順天堂大学】

2018年3月30日

【目次】

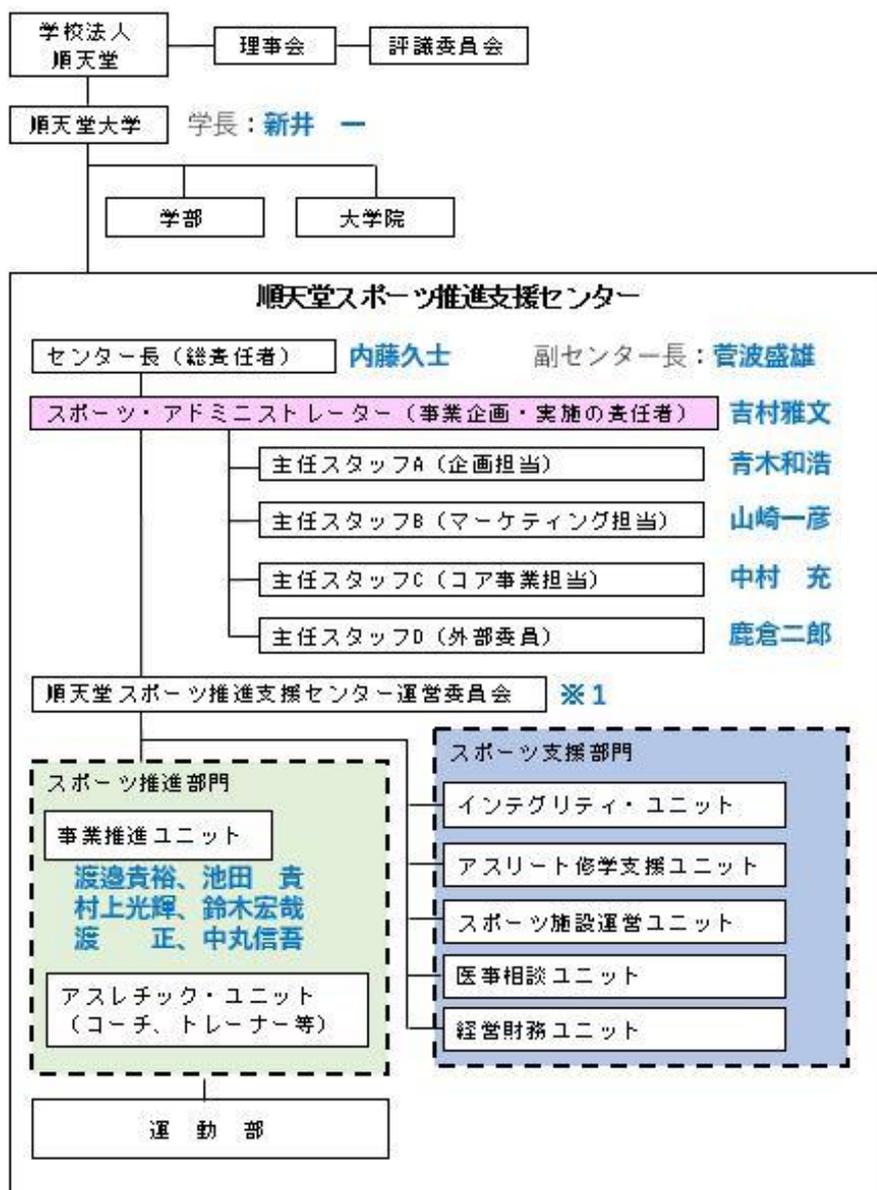
<u>1、スポーツ分野の統括業務の実施状況について</u>	P 3
【順天堂スポーツ推進支援センターの設置】	P 3
【センターの人員配置】	P 4
【センターの管理運営要領】	P 4
【センターで実施した事業】	
1－1 先進的モデル事業	P 5
1－2 連携協力協定の締結	P 5
1－3 事業推進研究会の開催	P 5
1－4 入学前教育プログラムの開催	P 7
1－5 コンプライアンス教育の開催	P 10
1－6 リメディアル教育に実施	P 11
1－7 安全・安心教育	P 11
【現状の課題】	P 11
<u>2、大学スポーツ・アドミニストレーターの配置の状況について</u>	P 12
<u>3、先進的モデル事業の実施状況について</u>	P 12
【パラスポーツを通じた地域貢献、地域活性化】	P 12
1－1 効果的・实际的プログラムの提案	P 12
1－2 体験会日程・スケジュール	P 14
1－3 事業評価（アンケート）	P 16
【スポーツ科学の研究とその成果の社会還元】	P 20
2－1 パラスポーツ指導書出版に向けた資料作成	P 20
2－2 パラスポーツ用品開発のための準備	P 20
【資料】	
3－1 体験会資料	P 22
3－2 体験会アンケート用紙	P 27
3－3 指導書資料（ゴールボール）	P 33
3－4 指導書資料（ボッチャ）	P 43
3－5 プレスリリース等	P 56

1、スポーツ分野の統括業務の実施状況について

【順天堂スポーツ推進支援センターの設置】

体育系大学である本学では、従来から学内に運動部統括組織として「運動部運営委員会」を委員会として設置し、競技力の向上はもちろんのこと、教育的な側面からも学生に対し健全なスポーツ支援活動を行ってきた。本事業を契機として「運動部運営委員会」を発展的に改組し、スポーツ分野の全学的な統括部局「順天堂スポーツ推進支援センター」（以下「センター」という。）を設置し、スポーツ推進やスポーツ支援等の取組を一体的に推進するための体制を構築した。（図1）従来の運動部運営委員会は「順天堂スポーツ推進センター運営委員会」と名称を変更し、本学が行ってきた運動部学生に対する教育的指導を継承していくこととした。

図1 順天堂スポーツ推進支援センターの組織体制



※1：吉村雅文(蹴球)、山崎一彦(陸上)、廣瀬伸良(柔道)、青木和浩(陸上)、中村充(剣道)、中嶽誠(バスケット)、原田睦巳(体操)、武田剛(水泳)、大野早苗(自転車)、渡邊貴裕(フットサル)

【センターの人員配置】

センターの人員配置は図1の通りで、センター長には、スポーツ健康科学部学部長の内藤久士教授、副センター長には、学生部部長の菅波盛雄教授、スポーツ・アドミニストレーターには事業企画・実施の責任者として現運動部運営委員長である吉村雅文教授を配置した。また、推進支援を進めるにあたり、主任スタッフとして(企画・マーケティング・コア事業担当)スタッフを配置した。

外部委員としてNATABOC公認アスレティックトレーナー(ATC)の資格を持ち、NCAAに精通している鹿倉二郎客員教授を配置した。また、事業推進ユニットには日本ゴールボール協会の池田貴理事と日本ボッチャ協会の村上光輝強化指導部長を配置し、今回の先進的モデル事業のパラスポーツ体験教室の実施やパラスポーツ用品開発等を協働するようにした。

【センターの管理運営要領】

センターを管理運営するにあたり、目的、業務内容等の必要事項を定めるため、管理運営要領を制定し、運用を開始する予定である。

○順天堂大学スポーツ推進支援センター管理運営要領(案)

(目的)

第1条 この規程は、順天堂大学の大学スポーツの推進、支援することを目的に設置する順天堂大学スポーツ推進支援センター(以下「センター」という。)の管理運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 運動部活動に関すること。
- (2) スポーツ施設の運営管理に関すること。
- (3) 学生アスリートのキャリア形成支援・学修支援に関すること。
- (4) 大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化に関すること。
- (5) 大学スポーツを通じた収益力向上に向けた取組に関すること。
- (6) 大学スポーツを通じた大学ブランド力の向上に関すること。
- (7) スポーツボランティアの普及啓発に関すること。
- (8) スポーツ科学の研究とその成果の社会還元に関すること。
- (9) その他前条の目的を達成するために必要なこと。

(組織)

第3条 センターは、次の各号に掲げる教職員を置く。

- (1) スポーツ推進支援センター長(以下「センター長」という。)
- (2) スポーツ・アドミニストレーター(以下「アドミニストレーター」という。)
- (3) 主任スタッフ
- (4) 運営委員
- (5) その他必要な教職員

(委員会)

第4条 センターは第1条の目的達成のため、運動部指導者総会、運動部運営委員会を開催する。

2 運営部指導者会に関する事項は別に定める。

(センター長)

第5条 センター長は、学長が任命する。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

(アドミニストレーター)

第6条 アドミニストレーターは、大学スポーツの事業開拓及びブランド力の向上等に関する企画・立案並びに学内外の関係者との調整等大学スポーツを円滑に推進する業務を行う。

2 アドミニストレーターは、センター長が推薦し、学長が任命する。

(事務)

第7条 センターに関する事務は、各学部の運動部担当部署が協力して行う。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、運営指導者総会の議を経て、センター長の承認を得て、学長が行う。

【センターで実施した事業】

1-1 先進的モデル事業 ⇒ 12 ページ以降の別項目のところで詳細に記載

1-2 連携協力協定の締結

本学は、これまで自治体との連携を基盤に様々な取り組みを行ってきたが、今回、パラスポーツ競技である「ゴールボール」及び「ボッチャ」の強化・普及活動を通し、指導者としての資質を養う学生教育を行うと共に、相互に人的・技術的協力を行うことを目的として、今般、一般社団法人日本ゴールボール協会及び一般社団法人日本ボッチャ協会とそれぞれ連携協力協定を平成30年1月25日(木)に締結した。両協会との締結により、競技会・体験会・体験授業等への学生派遣、日本代表選手・強化指定選手の強化指導、特別支援学校等で活用される競技指導書の作成等の取り組みにおいて、両協会とのより一層の連携を図る体制を整えることができた。



1-3 事業推進研究会の開催

パラスポーツ団体や学外の識者から助言を得る機会として、事業推進研究会を以下の通り2回実施した。

1回目は平成30年2月26日(月)に印旛中学校で開催し、千葉県・印西市の行政や教育委員会、印西市のスポーツ推進委員、実施校教員や外部有識者からご意見を頂き、有意義な研究会となった。本学の先進的モデル事業は、良い取り組みであり、高評価を頂いた。また、今後の継続も望まれた。一方、準備に関わる時間や予算措置などの問題も明らかとなり、これらの点も踏まえ、事業を進めていく必要があると考えられた。



事業推進研究会 1 回目：平成 30 年 2 月 26 日の出席者一覧

所属	所属・職位	氏名
千葉県	千葉県教育庁教育振興部体育課スポーツ推進室オリ・パラアスリート強化・支援班指導主事	中村正人
	千葉県総合企画部東京オリンピック・パラリンピック推進課 主査	進藤周介
印西市	印西市総務部秘書課 オリピック・パラリンピック推進室 担当課長	鈴木福松
	印西市総務部秘書課 オリピック・パラリンピック推進室 主査	鈴木勝
	印西市教育委員会 指導課 指導主事	弘海由香
	印西市スポーツ推進委員	野村清枝
	印西市スポーツ推進委員	市村昇
印旛中	印旛中学校 校長	渡邊義規
	印旛中学校 教頭	加藤知巳
外部委員	東京学芸大学附属特別支援学校・リオパラ日本代表水泳コーチ	尾高邦生
順天堂	JGBA日本ゴールボール協会 理事・男子強化指導責任者	池田貴
	日本ボッチャ協会 強化指導部長	村上光輝
	推進ユニット リーダー・スポーツ健康科学部 前任准教授	渡邊貴裕
	推進ユニット メンバー・スポーツ健康科学部 准教授	鈴木宏哉
	推進ユニット メンバー・スポーツ健康科学部 准教授	渡正
	スポーツ健康科学部 前任准教授	中嶽誠
	スポーツ健康科学部 教授・副学部長・スポーツアドミニストレーター	吉村雅文
	スポーツ健康科学部 教授・学部長補佐	青木和浩
	学生課 課長補佐	白石知己
	広報文書課	副島由希子
	社会連携室	伊藤美和子

2 回目は平成 30 年 2 月 27 日(火)にさくらキャンパスで開催し、外部識者、ゴールボール協会、本学の運動部指導者など 50 名が出席した。本研究会は学内の運動部に関わる教員に対し「スポーツ推進支援センター」の説明や「先進的モデル事業」の紹介を行った。この研究会を通して、学内教員への周知が出来た点が大きな成果である。今後は、「スポーツ推進支援センター」の運用や他のクラブ活動の中でも本事業に関わってくる実質的な協議会が必要であると考えられた。

事業推進研究会 2 回目：平成 30 年 2 月 27 日の出席者一覧

所属	役職	氏名	所属	役職	氏名
日本障がい者スポーツ協会	スポーツ推進部	水原 由明	剣道部	部長・監督	中村 充
日本障がい者スポーツ協会	スポーツ推進部	小塩 聡	剣道部	コーチ	鷹見 由紀子
ゴールボール協会	理事	池田 貴	剣道部	コーチ	大野 達哉
順天堂大学	スポーツアドミニストレーター	吉村 雅文	水泳部	部長	久保原 禪
順天堂大学	主任スタッフ	青木 和浩	水泳部	監督	武田 剛
順天堂大学	客員教授	鹿倉 二郎	水泳部	副部長	大久保菜穂子
順天堂大学	事業推進ユニット	鈴木 宏哉	硬式庭球部	部長	和気 秀文
順天堂大学	事業推進ユニット	渡 正	硬式野球部	部長	水野 基樹
陸上競技部	部長	越川 一紀	硬式野球部	副部長	窪田 敦之
陸上競技部	監督	山崎 一彦	ソフトテニス部	部長	工藤 康宏
陸上競技部	コーチ	仲村 明	ハンドボール部	部長	町田 修一
バレーボール部	部長	黒須 充	ハンドボール部	副部長	尾崎 隼朗
バレーボール部	監督	中田 学	ラグビー部	部長	神原 直幸
バレーボール部	コーチ	荻原 朋子	スキー部	部長	松山 毅
バレーボール部	コーチ	河村 剛光	バドミントン部	部長	牛尾 直行
体操競技部	コーチ	富田 洋之	トライアスロン競技部	部長	長登 健
体操競技部	コーチ	福尾 誠	トライアスロン競技部	副部長	長岡 知
体操競技部	コーチ	新竹 優子	ソフトボール部	部長	四方田 清
蹴球部	監督	堀池 巧	ダンス部	部長	中村 恭子
蹴球部	コーチ	青葉 幸洋	ダンス部	副部長	鈴木 美奈子
自転車競技部	部長	大野 早苗	スカッシュ部	部長・監督	柳谷 登志雄
柔道部	部長	菅波 盛雄	ライフセービング部	部長	廣津 信義
柔道部	監督	廣瀬 伸良	学生課	課長補佐	白石 知己
バスケットボール部	監督	中嶽 誠	学生課	係長	高橋 佐江
バスケットボール部	副部長	深尾 宏祐	学生課	係員	中山 奈央

1-4 入学前教育プログラムの開催

AO入試、推薦入試で、スポーツ競技成績が秀でた区分で早期に合格した平成30年4月入学予定者を対象とした入学前教育プログラムを平成30年1月27日(土)~28日(日)の2日間にわたり、さくらキャンパスと成田市内のホテルにおいて実施した。本プログラムは、入学内定者が大学における充実した学生生活を送るための準備や、アスリートとしての自身の将来の姿や目標についてクラブ指導者と共に改めて見つめ直すことを目的とし「集合研修」形式で実施し、101名が参加した。



1日目はケーススタディや在校生との交流を通し、順大生・アスリートとして期待されているモラルやマナー、大学において学ぶ意義、求める学生像、大学入学までに身につけておくべき教科・科目の理解を深めた。

2日目は競技種目ごとに、監督・コーチを交え、高校時代を振り返り、大学でさらに成長するために、ワークシートを作成しながらグループワークを行った。その後、入学内定者自らパワーポイントを作成し、競技ごとに発表を行った。

入学内定者が作成したパワーポイント「4年間の意気込み」

四年間の意気込み

(男子陸上競技部 短距離・ハードル)

Put : Through the T&F to be a International Persons.

Our Thema : Competing with each others.

We will participate in the **Tokyo Olympic** & Be a JPNs National TEAM.

We want to become a person others want to be admired. (オーラを出す)

目標を達成するために必要なことは

仲間とのコミュニケーションを大切にすることや、互いに競え合える環境・ライバルづくりしていくこと

家族のようになる。これからは家族よりも過ごす時間が長い

目の前にいる仲間を大切にする

どんなクラブに？

ライバルになる環境づくり

楽しくありながら、勝負は情け無用

入学前教育プログラム「タイムスケジュール」

2018年1月27日(土)			
時間	全体進行	担当/講師	会場
12:30	集合 / 集合写真撮影		泰然の庭
13:00	プログラム スタート ・学生部長 挨拶 ・運動部運営委員長 挨拶 入学前教育プログラムの目的・成績不良者の実態 教務事項、この大学で培ってほしいこと ・自己紹介タイム(グループごと8~9人)	司会:中嶽 誠 先生 菅波盛雄 先生 吉村雅文 先生	2号館4F・4E教室
14:00	プログラム I 「本学運動部及び運動部に求められる モラルとマナーについて」	廣瀬伸良 先生	2号館4F・4E教室
14:45	「近年に見られる大学運動部に関わる 社会的な事故・事件の事例」	原田睦己 先生	
15:30	プログラム II 15:30-15:45 着替え・移動		2号館4F
	「アイスブレイク&コミュニケーション」	中丸信吾 先生	コスモホール
17:15	17:00-17:15 着替え・移動 プログラム III 「大学での学びをどのようにクラブ活動に活かすか」	渡邊貴裕 先生 武田 剛 先生	2号館4F・4E教室
18:15	夕食(バイキング形式)	各クラブ指導者/上級生	学生食堂
19:00	プログラム IV 「競技を極める学問とは」	山崎一彦 先生 大野早苗 先生	2号館4F・4E教室
20:00	ホテルへ移動		1号館ロータリー
20:45	ホテル到着		U-シティホテル メルキュールホテル
2018年1月28日(日)			
時間	全体進行	担当/講師	会場
~8:30	起床/朝食/チェックアウト		
8:45	各自集合/着席 完了		メルキュールホテル 3F 空
9:00	プログラム V Discussion 「高校時代を振り返って」 各クラブの監督・コーチと(ワークシートを作成しながら)	司会:中嶽 誠 先生 吉村雅文 先生	
10:00	プログラム VI Discussion 「大学でさらに成長するために」 各クラブの監督・コーチと(ワークシートを作成しながら)	吉村雅文 先生	
12:00	昼食		
13:00	プログラム VII 「クラブごとの発表」		
14:00	Closing 解散		

また、入学前教育プログラム参加者に評価シートを提出してもらったところ、どの項目においても評価5(良い)と評価4(まあまあ良い)の占める割合が97%以上で、非常に高評価であった。

入学前教育プログラム 評価シート

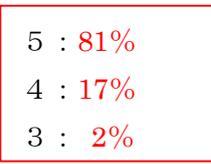
氏名： _____ クラブ： _____

2日間の集合教育ご苦労様でした。この評価シートは、皆さんが今回のプログラムをどの程度理解できたかを確認するための評価シートです。以下の項目について、評価をしてみてください。

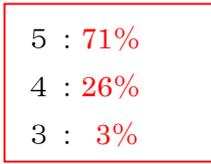
1. 今回のプログラムは有意義でしたか？



2. アスリートの競技力向上と大学での学び、学問との関係を理解することはできましたか？



3. アスリートのモラルやマナーについて理解することが出来ましたか？



4. 大学での授業や学生生活の大切さを理解することが出来ましたか？



5. 大学での成長を考える機会となりましたか？



6. 今回のプログラムで得られたこと(学び・知識)を書いてください。

主な回答例

- 競技者、順大生として何が大切で、何をしなければいけないかを学ぶきっかけになった。
- 一緒に入学する仲間と仲良くなることができ、アスリートの競技力やモラルなどの専門的なことを学べた。
- 大学生としての自覚、大人になるということ、スポーツをするものとして正さなければいけないと改めて感じた。

7. 入学前までにしておきたいことを書いてください。

主な回答例

- 学問と競技を両立させ、専門競技では先輩についていけるように頑張り、勉強ではTOEFLを頑張りたい。
- スムーズに大学生活が送れるよう、入学までに競技の練習や学習を意識してやる。
- 日常生活や練習で、モラルやマナーなどの学んだことを改めて意識する。

1-5 コンプライアンス教育の開催

昨今、大学生アスリートに対する世間の眼が厳しくなっている中、大学生アスリートに求められるコンプライアンスやモラルの向上を主目的とし、各運動部を相互に関連させながら「振り返りワーク」をその都度実施し、各運動部の主軸になる主将、主務となる学生がそれぞれの運動部にこの教育内容をフィードバックし、各々の意識向上の一助となることを目的に平成30年3月6日(火)にさくらキャンパスで開催し、31団体、59名が出席した。実施した内容は以下の通りである。



コンプライアンス教育の「タイムスケジュール」

時間	内容	担当	備考
10:00	開会挨拶	吉村雅文 先生 (運動部運営委員長)	
10:05-10:30	コンプライアンスについて	久保昌也事務部長	
10:30-11:15	振り返りワーク	各運動部で実施	
昼食			
12:30-13:15	近年に見られる大学運動部に関わる社会的な事故・事件の事例	武田 剛 先生	
13:15-13:45	振り返りワーク	各運動部で実施	
休憩			
14:00-14:45	本学運動部及び運動部員に求められるモラルについて	中嶽 誠 先生	
14:45-15:15	振り返りワーク	各運動部で実施	
休憩			
15:30-16:30	各運動部へのフィードバック用 PPT 資料作成	各運動部で実施	
16:30-17:00	運動部の PPT 資料の相互確認	全参加者	
17:00	閉会挨拶	菅波盛雄 学生部長	

1-6 リメディアル教育の実施（学業の充実）

学修フォローアップのための勉強会を平成 29 年 10 月より毎週木曜日、金曜日の放課後に学術メディアセンター（図書館）にて開催した。この勉強会はアシスタント学生が参加者の学修をサポートする形式で行い、定期試験直前の週は毎日開催した。

また、運動部の指導者がアスリート入学者に対するフォローアップカードを作成し、指導者が競技成績、単位取得状況、欠点科目数、平均点を把握するようにし、学業成績不良者に対しては面接を行い、何が問題なのか原因を把握し、改善するようにした。

1-7 安全・安心教育

本学は学生教育研究災害障害保険に学生全員が加入しているが、それに加え、スポーツ安全協会が運営しているスポーツ安全保険にほとんどの部員が加入している。高い加入率の要因としては、マネージャー会議や運動部指導者定例総会において、保険の内容並びに加入することのメリットを周知徹底し、クラブごとに加入の手続きをしているからと言える。

安全衛生管理室では、看護師 2 名が常駐し、さらに本学の専任教員である整形外科医 1 名、循環器内科医 1 名、精神科医 1 名が校医として常駐しているのも、学生の怪我や病気に迅速に対応すると共に、必要があれば順天堂附属病院に搬送している。

自転車競技部やトライアスロン競技部は、競技用自転車にてロード練習を行うので、道路走行時の安全教育を実施した。

【現状の課題】

本学の場合、同窓会（体育会）よりもスポーツ健康科学部において、学部設立時より、学内教員によるクラブ活動の指導体制を取っていた。その為、今回の組織改編については、これまでの組織体制と異なる部分があるため、特に学内の周知に多くの時間を要する状況である。その為、組織体系や管理運営要項を作成し、学内教職員・学生に対し、アドミニストレーターを中心に、日本版 NCAA の趣旨や学内での周知および協力体制を取っている。

2、大学スポーツ・アドミニストレーターの配置の状況について

前述の通り、順天堂スポーツ推進支援センターを設置し、総責任者のセンター長のガバナンスのもと、事業開拓やブランド力向上等のスポーツ分野の取組を総合的にコーディネートする人材として、本学スポーツ健康科学研究科教授の吉村雅文をスポーツ・アドミニストレーターとして配置した。

大学スポーツ・アドミニストレーターに求めた資質・能力等は以下の7点である。

- ①学内の部活動について精通し、支援、管理ができる者
- ②社会的な課題を踏まえ、大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化の企画立案ができる者
- ③学内外の組織との協働によって効果的に事業を展開できる者
- ④収益力向上に向けた取組を企画立案し、資金調達のできる者
- ⑤学生アスリートへの学修支援やキャリア形成支援の企画立案ができる者
- ⑥カリキュラム整備を含めたスポーツ教育のコーディネートができる者
- ⑦スポーツボランティアの育成と普及啓発活動が指揮できる者

また、具体的に行った主な業務としては、以下の通りである。

- ・周辺自治体と連携を強化し、スポーツ施設の地域開放をはじめ、研究成果及び人的資源等を活用して、スポーツ文化の発展、健康増進、介護予防、共生社会の実現等、多様な課題解決に協力してきた事例整理
- ・大学内での「順天堂スポーツ推進支援センター」の組織体制整備および人的配置
- ・学外との連携体制の整備と強化（特に、日本ボッチャ協会、日本ゴールボール協会との連携協定締結の準備）
- ・オリンピック・パラリンピック教育のカリキュラムへの反映
- ・本学が取り組むべき課題や将来構想を推進する「SAKURA 未来プロジェクト」との関係整備
- ・学生アスリートへの学修支援の一環としてリメディアル教育を実施
- ・収益につながる先進的モデル事業の具体的な実施に向けた指示、調整
 - ※ 先進的モデル事業の実施については、3にて記載
- ・スポーツボランティアの育成と普及啓発活動に関する学生登録システム（PaSSNet Juntendo）構築の指示
- ・日本版NCAAに関する会議やシンポジウムに出席
（主催：スポーツ庁、学校経理研究会、日本体育大学、自由民主党など）

3、先進的モデル事業の実施状況について

【パラスポーツを通じた地域貢献、地域活性化】

1-1 効果的・実際のプログラムの提案

本学では、自治体や民間企業との連携協定を締結している。これまでに、学校関係やスポーツ団体（障害者スポーツ団体を含む）に多くの卒業生を輩出しており、この分野における幅広い知見や人的ネットワークを有してきた。本事業では、障害者スポーツ団体や新たな民間企業とも連携して、事業の共同推進と技術交流のためのネットワークを充実させる（下記の図を参照）。

さらに、障害者スポーツへの理解を深めるとともに、地域での障害者スポーツの普及啓発を図るため、千葉県内の連携協定自治体において、パラスポーツ体験会を実施する。事業の実施に際しては、日本ボッチャ協会、日本ゴールボール協会と連携協定を締結し、効果的・実地的なプログラムを考案し、展開する。

- 連携協定民間団体（スポーツ関係）
- ・ 公益財団法人笹川スポーツ財団（スポーツボランティアに関する協定）
 - ・ セントラルスポーツ株式会社（包括協定）
- 【本申請事業を進めるための連携予定企業（スポーツ関係以外も含む）】
- ・ 株式会社ミカサ（用品開発協定予定）
 - ・ 株式会社アポワテック（用品開発協定予定）
 - ・ 東武トップツアーズ株式会社（パラスポーツ体験教室協定予定）
 - ・ 株式会社プラミン（イベント開催協定予定）
 - ・ 凸版印刷株式会社（書籍出版・印刷協定予定）

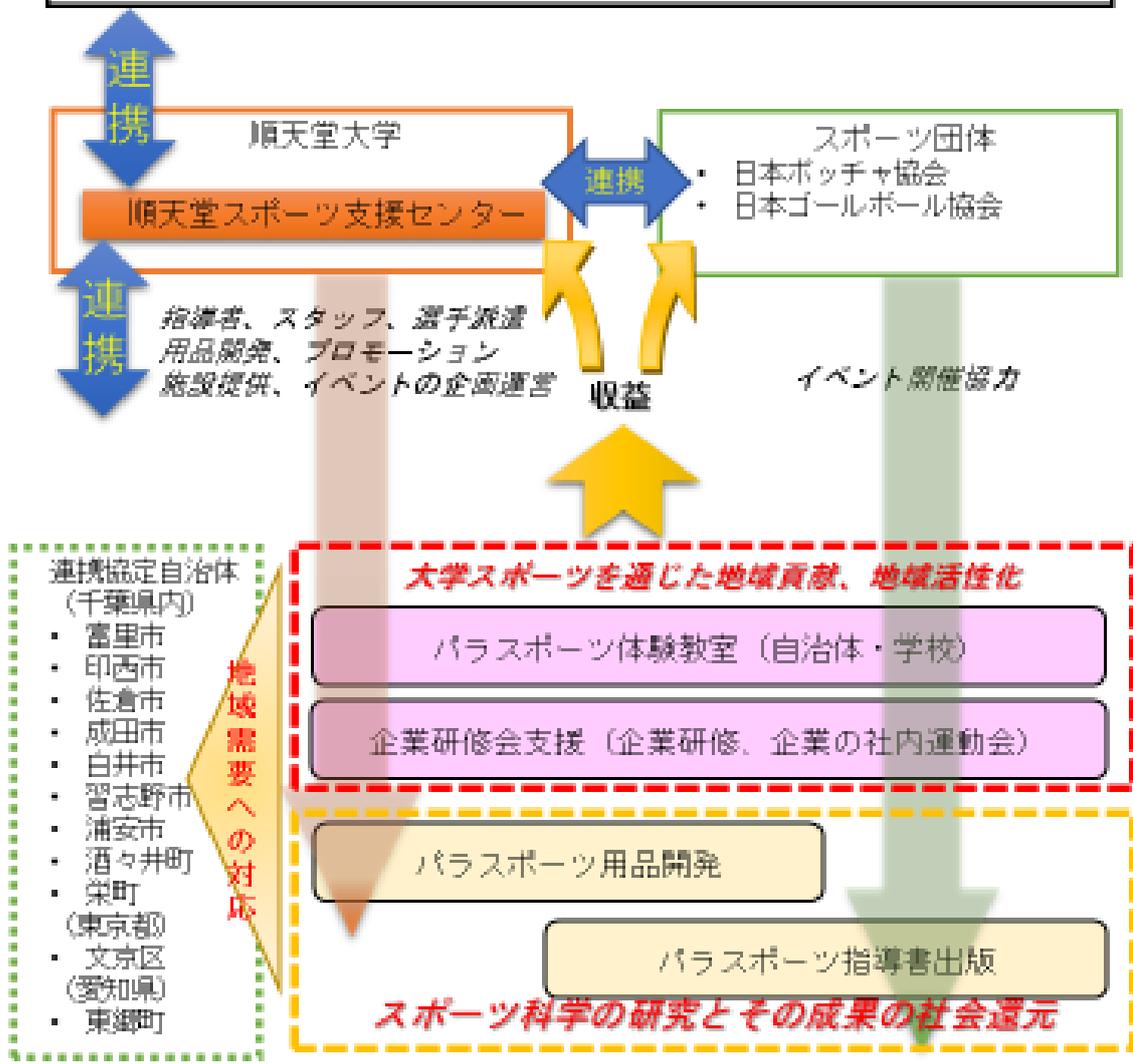


図 事業推進のための学外との連携体制

1-2 体験会日程・スケジュール

体験会日程・スケジュールは下記の通りである。小学校、中学校、自治体に加え、企業研修（企業の社内運動会を含む）を展開した。事業に学生を派遣するにあたっては、学部の授業科目においてゴールボール及びボッチャを中心とするパラスポーツの実技を導入し学生に体験させた。また、学生登録システム（PaSSNet Juntendo）を活用して学生募集を行い、希望者に対して学内で事前講習会を実施した。学生登録システム（PaSSNet Juntendo）はパラスポーツに関心をもつ学生の把握・ネットワークの構築と、学生に対する種々の情報配信を行い、学生が主体的に本事業に関わることができるように設計、運用されている。学生の募集はWEB上の登録フォームを用いて行い、情報のメール配信を行っている。現状では、1・2年生を中心に約250名の学生が参加している。このネットワークから自主的にパラスポーツに関わる学生が増えており、学生組織化としては一定の成果があった。

順天堂大学パラスポーツ・サポートネットワーク (Para Sports Support Network Juntendo : PaSSNet)への登録のお願い

東京オリンピック・パラリンピックまで3年を切り、パラスポーツを盛り上げるには、学生のみなさんがパラリンピックや障害者スポーツへの理解を深め、親しむ環境づくりが重要となります。

このPaSSNetは、順大生のみなさんが中心となって、パラ・スポーツ（障害者スポーツ）を楽しんでみたり、活動している団体やイベントのサポートをしたり、様々なスポーツを観戦したりするための情報配信などを目的に設立します。

みなさんには是非、このネットワークに登録してもらい、みなさんの力で日本のパラリンピック、パラスポーツを盛り上げていきましょう！



登録はこちら↑



順天堂スポーツ推進支援センター運営委員会
スポーツ推進部門事業推進ユニット
(担当：渡邊, 鈴木(宏), 渡, 中丸)

平成29年度スポーツ庁委託事業「日本版NCA
A創設事業（大学スポーツ振興の推進）」

図 PaSSNet への募集チラシ

表 体験会日程・スケジュール

月日	時間	事業名	種目	主催	事業内容	場所
2017/5/5	9:00-16:00	人材育成	ゴールボール	日本ゴールボール協会	Official Clinic ゴールボール審判講習会	松山下公園総合体育館
2017/6/15	9:00-16:00	体験会派遣	ゴールボール	佐倉市教育委員会	佐倉市スポーツ交流会	佐倉市民体育館
2017/8/3	9:00-16:00	大会派遣	ゴールボール	日本ゴールボール協会	2017ジャパンパラゴールボール競技大会	千葉ポートアリーナ
2017/8/3	9:00-12:00	体験会派遣	ボッチャ	板橋区	チャレンジボッチャinいたばし	板橋区立東板橋体育館
2017/8/8	9:00-16:00	体験会派遣	ゴールボール	千葉県	グッと！オリパラ～オリンピックパラリンピック教育体験研修	千葉県総合スポーツセンター
2017/8/19	9:00-12:00	人材育成	ボッチャ	新宿区・日本ボッチャ協会	2017育成キャンプin新宿	新宿コズミックセンター
2017/8/20	9:00-16:00	人材育成	ボッチャ	新宿区・日本ボッチャ協会	2017アジアパラゲームズ対象選手合宿	新宿コズミックセンター
2017/9/18	9:00-12:00	体験会派遣	ボッチャ	東京都	チャレスポ東京ボッチャ体験会	東京国際フォーラム
2017/10/9	9:00-12:00	体験会派遣	ボッチャ	愛知県・東郷町	とうごう体操まつり	愛知県東郷町総合体育館アリーナ
2017/10/21	9:00-16:00	企業派遣	ボッチャ	TANAKAホールディングス	TANAKAフールディングス企業運動会	BumB東京スポーツ文化館
2017/11/26	9:00-16:00	人材育成	ボッチャ	日本ボッチャ協会	2017ボッチャ大学選手権	日本大学三軒茶屋キャンパス
2017/11/29	9:00-16:00	体験会派遣	ゴールボール	千葉県	オリンピック・パラリンピック開催1000日前イベント	旭市総合体育館
2017/12/5	17:00-19:00	体験会派遣	ゴールボール	千葉県	地元大学生とともにゴールボール体験会	千葉県立幕張総合高等学校看護科校舎
2017/12/18	10:15-11:45	体験会派遣	ゴールボール	千葉県	習志野市立香澄小学校ゴールボール体験会	習志野市立香澄小学校体育館
2017/12/18	14:55-16:30/16:40-18:15	体験会派遣	ゴールボール	順天堂大学	ゴールボール体験会in順大	順天堂大学体育館
2017/12/20	9:00-10:35/10:45-12:20	体験会派遣	ゴールボール	順天堂大学	ゴールボール体験会in順大	順天堂大学体育館
2017/12/23	9:00-16:00	体験会派遣	ボッチャ・ゴールボール	柏市教育委員会	スポーツドリームかしわ2017	柏の葉公園総合競技場
2018/1/4	13:00-17:00	人材育成	ゴールボール	日本ゴールボール協会	ジャパンゴールボールメンズオープン 会場準備	佐倉市民体育館
2018/1/5	9:00-17:00	人材育成	ゴールボール	日本ゴールボール協会	ジャパンゴールボールメンズオープン 合同練習補助	佐倉市民体育館
2018/1/6	8:30-16:30	人材育成	ゴールボール	日本ゴールボール協会	ジャパンゴールボールメンズオープン 合同練習補助	佐倉市民体育館
2018/1/7	8:00-18:00	人材育成	ゴールボール	日本ゴールボール協会	ジャパンゴールボールメンズオープン 大会競技役員	佐倉市民体育館
2018/1/8	8:00-17:00	人材育成	ゴールボール	日本ゴールボール協会	ジャパンゴールボールメンズオープン 大会競技役員	佐倉市民体育館
2018/1/27	8:00-16:00	人材育成	ボッチャ	日本ボッチャ協会	ボッチャTOKYOカップ 運営ボランティア	日本大学三軒茶屋キャンパス
2018/2/2	14:00-17:00	人材育成	ゴールボール	日本ゴールボール協会	ゴールボール男子日本代表チーム合宿 会場設営	市立船橋高校体育館
2018/2/3	9:00-17:30	人材育成	ゴールボール	日本ゴールボール協会	ゴールボール男子日本代表チーム合宿	市立船橋高校体育館
2018/2/4	9:00-15:00	人材育成	ゴールボール	日本ゴールボール協会	トレーニングサポート・高校生体験会補助	市立船橋高校体育館
2018/2/9	13:00-15:00	人材育成	ゴールボール	千葉県	千葉県自治体職員研修ゴールボール 運営補助	千葉県総合スポーツセンター
2018/2/9	10:30-11:15	体験会派遣	ボッチャ	新潟大学教育学部附属新潟中学校	東京への修学旅行の2日目で班別研修(ボッチャ)	TOYOTA MEGA WEB
2018/2/20	10:30-12:10	体験会派遣	ゴールボール	六合小学校	六合小学校 ゴールボール体験会	六合小学校
2018/2/26	8:40-10:20/10:30-12:10	体験会派遣	ゴールボール	印旛中学校	印旛中学校 パラスポーツ体験会(ゴールボール)	印旛中学校
2018/2/26	8:40-10:20/10:30-12:10	体験会派遣	ボッチャ	印旛中学校	印旛中学校 パラスポーツ体験会(ボッチャ)	印旛中学校
2018/2/28	10:25-12:00	体験会派遣	ゴールボール	平賀小学校	平賀小学校 ゴールボール体験会	平賀小学校
2018/3/11	10:00-13:00	体験会派遣	ボッチャ	日本ボッチャ協会	ボッチャ普及講習会・大会	文京区江戸川橋体育館

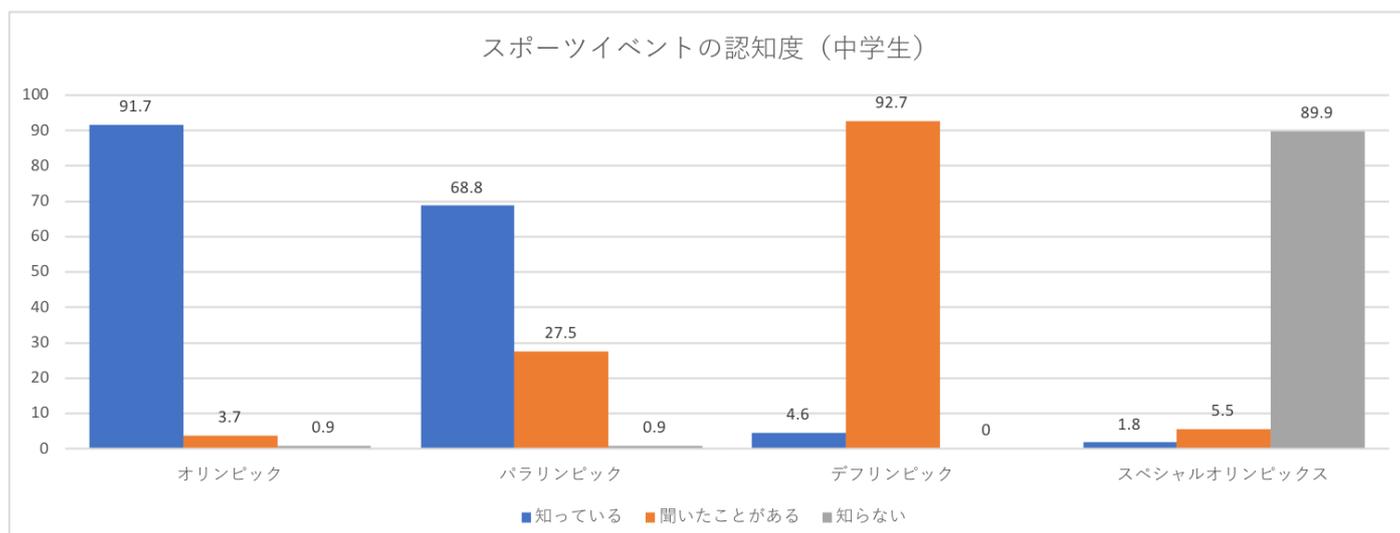
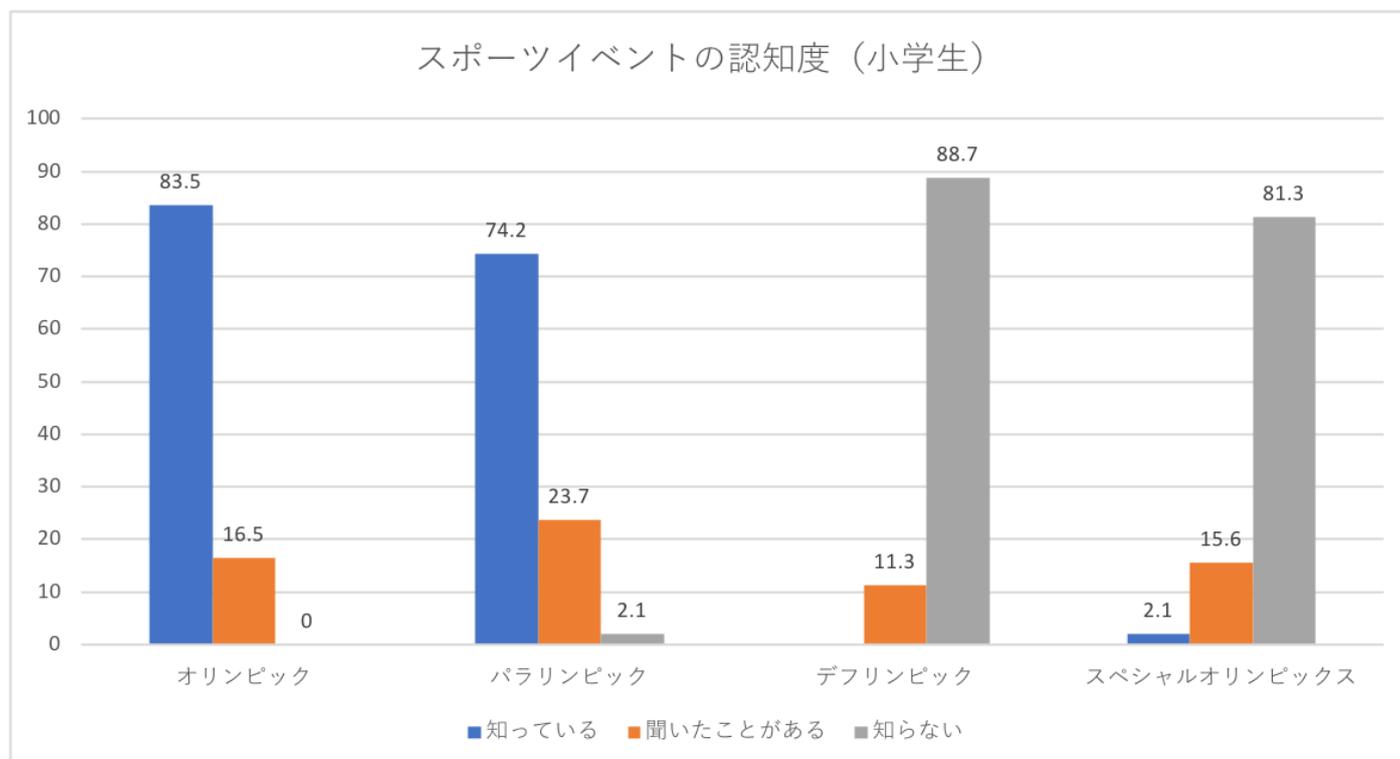
1-3 事業評価（アンケート）

本事業の評価として体験会に参加した小中学生および参加教職員へのアンケートを実施した。アンケート全体の回答数は300件（内、小学生87件、中学生99件、教職員14件）。質問項目として、フェイスシート、パラリンピック教育での課題を探るための用語の認知、体験会の評価を聞いた。また教職員には上記に加えて順天堂大学の取り組みに期待することを質問した。

以下ではその概略を示す。

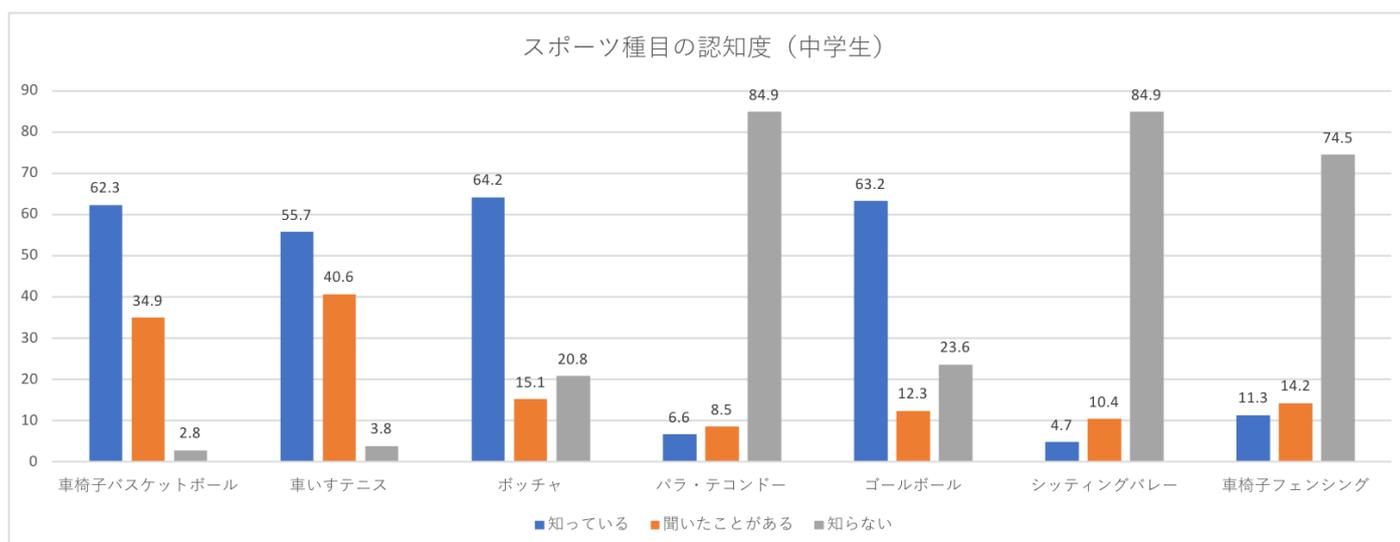
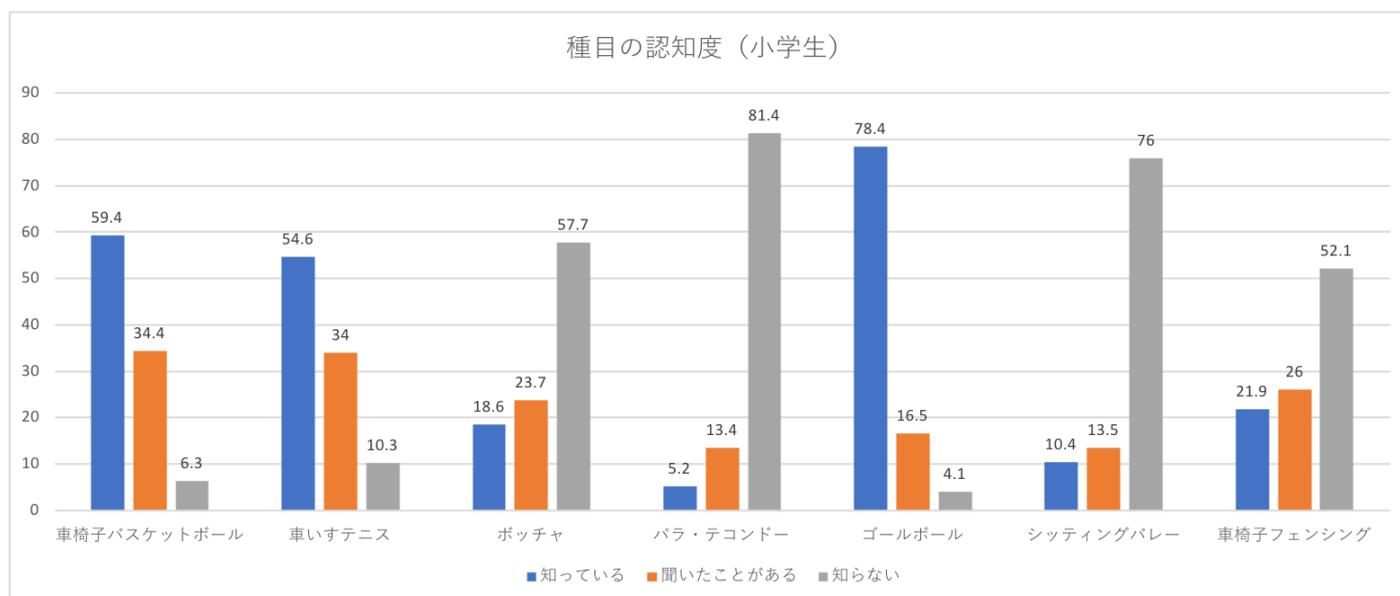
1) パラリンピックを始めとするスポーツイベントの認知

各スポーツイベントの認知については、オリンピックが小学生で83.5%、中学生で93.7%、パラリンピックが小学生で74.2%、中学生で68.8%の認知度を示した。一方、デフリンピックやスペシャルオリンピックスについては、小学生ではどちらも80%以上が知らないと答え、中学生はデフリンピックは90%が聞いたことがあり、スペシャルオリンピックスは90%が知らないと答えている。パラリンピック以外の障害者スポーツのイベントについても普及を進めていくことが必要であることを示しており、その点は本事業の将来的な課題となることが推察される。



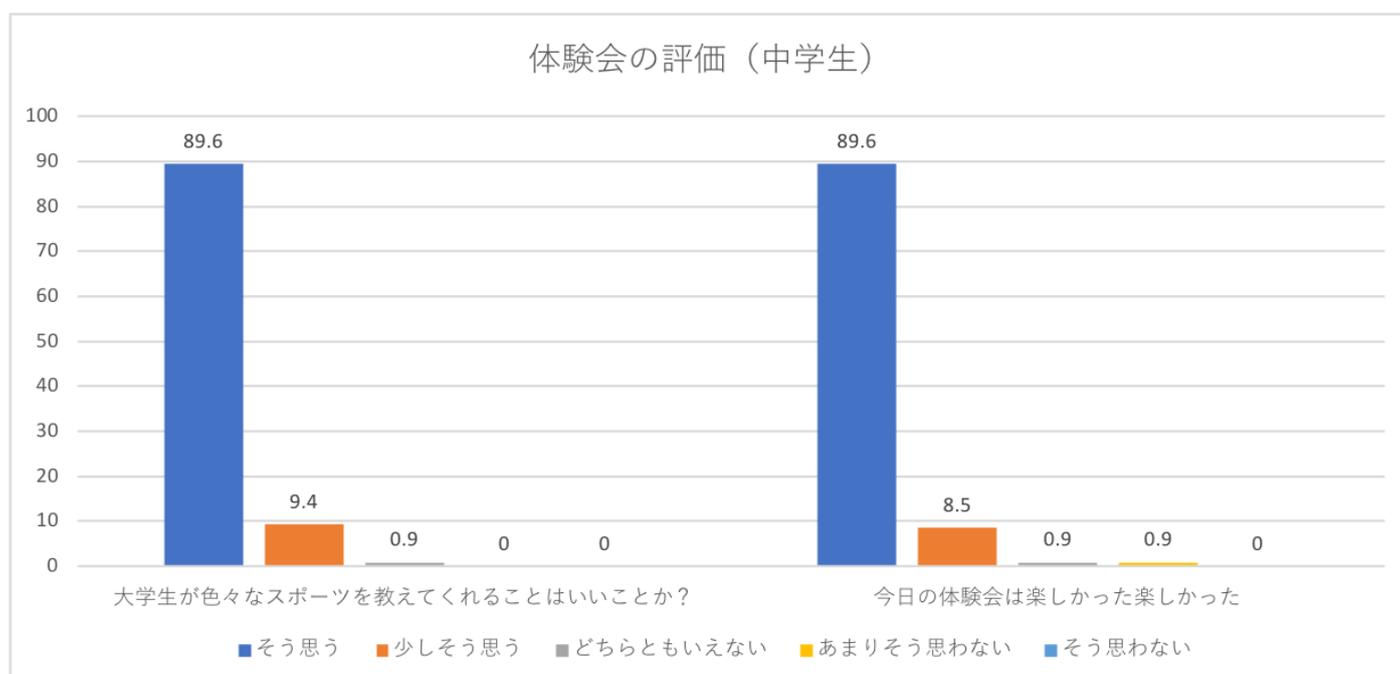
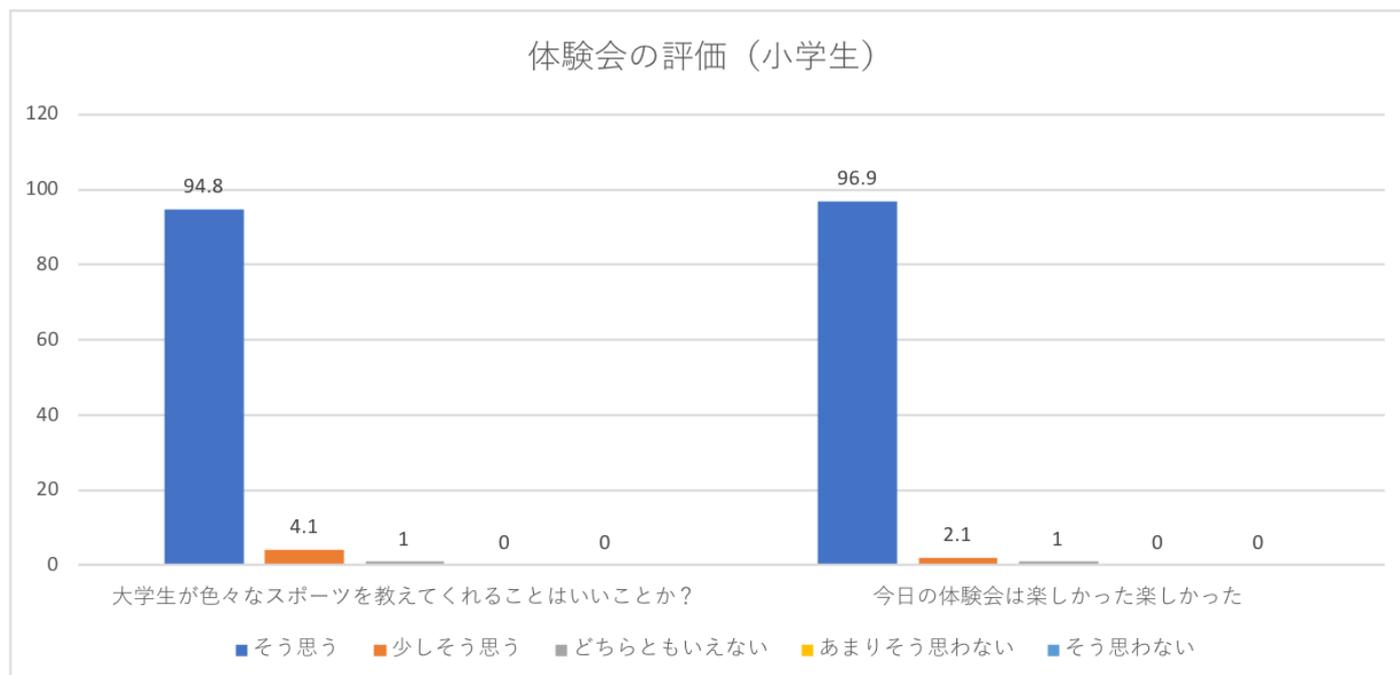
2) 競技の認知度について

小学生・中学生のどちらも同様の傾向を示している。車椅子バスケットボールと車椅子テニスの2つの種目は90%近い児童・生徒が「知っている」「聞いたことがある」と答えているのに対して、千葉県開催種目であるパラ・テコンドー、ゴールボール、シッティングバレー、車椅子フェンシングのうち、本事業の対象であるゴールボール以外の3競技ほとんど知られていない状況が浮き彫りになった。本事業の対象であるゴールボールに関しては、事業実施後にアンケートを記入したにも関わらず、知っているが100%近い数字になっていないことに疑問が残る。体験会の内容等の問題も視野にいれ、検討事項であるだろう。小学生と中学生で異なる結果となったのが、ボッチャである。しかし、中学生にはボッチャ体験会を実施していることから、短期的には体験会の実施によって競技の認知に好影響が期待できる。



3) 体験会の評価

小中学生による体験会の評価は概ね良好であった。「大学生は頼りになりましたか」「大学生はゴールボールをよく知っていましたか?」「大学生の身だしなみや言葉遣いは適切か」「質問にしっかり答えられたか」「困ったことがあったらすぐ助けてくれた」の他の項目でも概ね90%近くがそう思うと答えていることから、今回実施した事業については高評価を得ている。しかしわずかとはいえ、身だしなみや質問への適切な回答で、あまりそう思わない、そう思わないに回答があることは、本事業における学生教育の継続的実施が重要であることを示している。

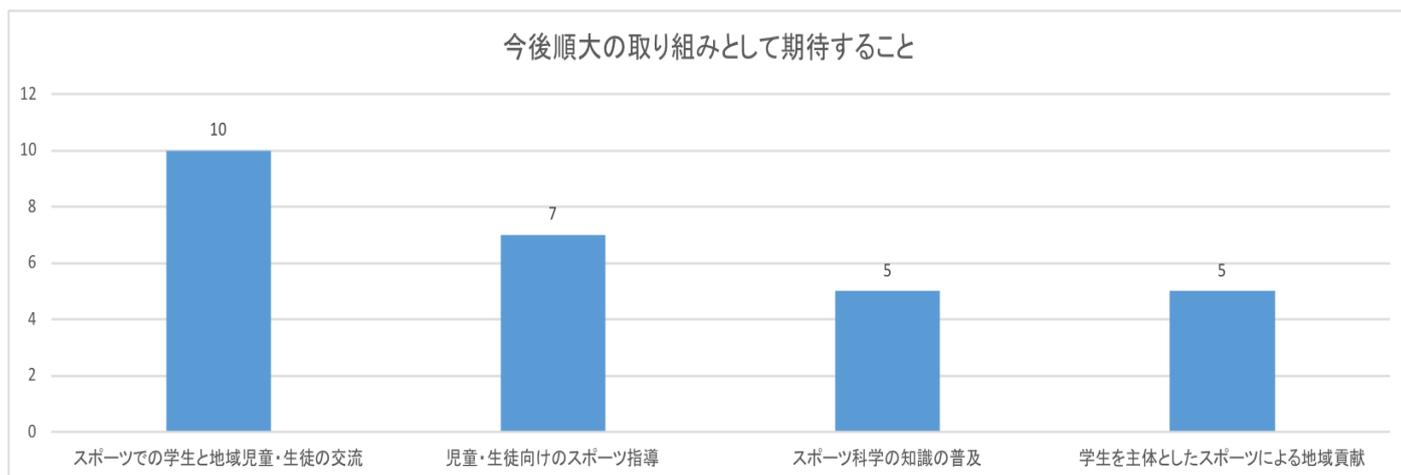
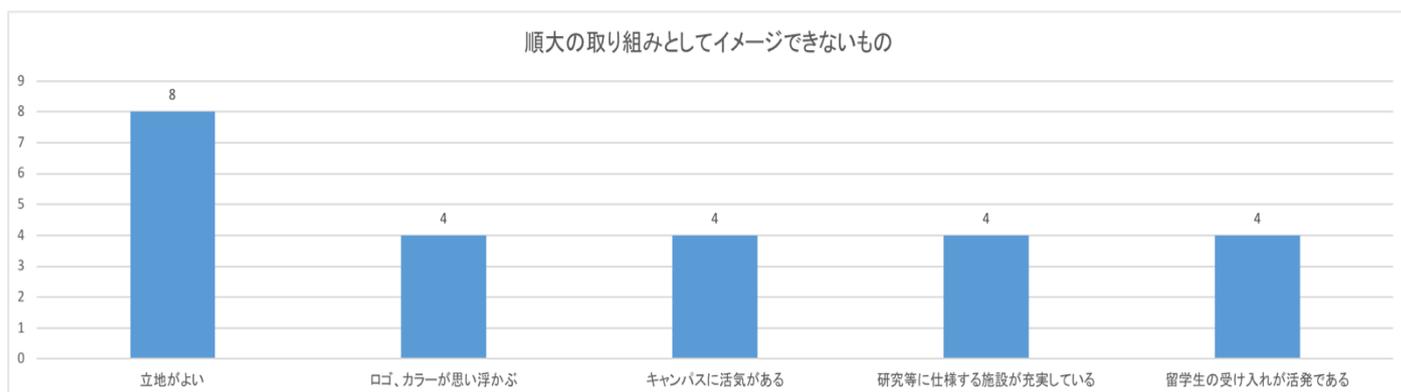
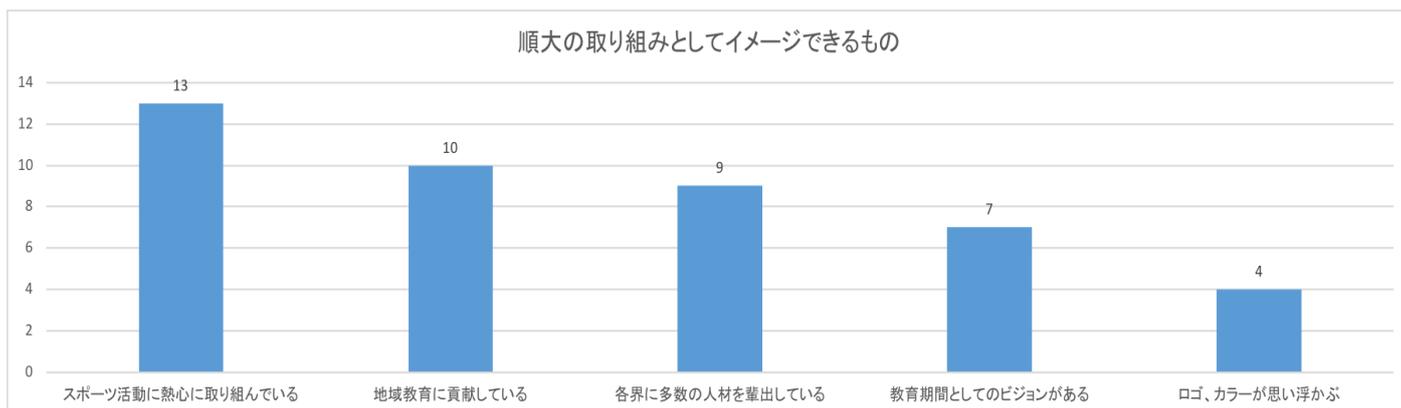


4) 順大の取り組みについて（結果は度数を示す）

順大としてイメージできるものには、「スポーツ活動に熱心に取り組んでいる」「地域教育に貢献している」「各界に多数の人材を輩出している」「教育機関としてのビジョンがある」「ロゴ・カラーが思い浮かぶ」などが上位の回答数を得ている。

一方、イメージできないものとして「立地」「ロゴ・カラー」「キャンパスの活気」「施設の充実」「留学生」が上がっている。

今後の取り組みとして期待することには、学生と児童・生徒の交流、指導などが挙げられており、順大・順大生と地域の児童・生徒との交流のニーズは高く、本事業の意義は今後高まっていくものと予想される。



【スポーツ科学の研究とその成果の社会還元】

2-1 パラスポーツ指導書出版に向けた資料作成

パラリンピック種目については、その種目の特性やルール等が記載されたハンドブックや書籍は存在するものの、基本的な運動技能やチーム戦術を高めるための練習方法が記載されている指導書は皆無である。そのため学校教育現場でのパラスポーツの導入が難しく、障害のある児童生徒が学校体育の中でパラスポーツを十分経験することが出来ない。

本学はコーチング科学研究のノウハウを活かし、パラスポーツに関する指導書の出版を目指し、そのための資料収集及び作成を行った。ゴールボール競技及びボッチャ競技の2種目について競技の説明（特性、ルール等）及び練習方法に関するスライドを作成し、実際の体験会で活用した（詳細については本報告書の巻末「資料」を参照）。

今後は、ハンドブック形式の指導書（案）を作成し、連携協定自治体の小学校、中学校、特別支援学校に配布する予定である。実際に児童生徒への指導を行ってもらい、その意見を掌握し内容の改善を図っていき、教材・教授法・学習内容のパッケージを作成する。

2-2 パラスポーツ用品開発のための準備

パラリンピックでのメダルの獲得には、用品の開発が欠かせない。パラスポーツ用品の一例としては、義手、義足、車椅子等があるが、これらは選手の障害の状態に合わせた、いわゆるオーダーメイドで製造され、価格も非常に高価である。パラリンピックの一部の種目では、ボールをはじめとする用具を輸入に頼っている場合があり、仮に国内生産のものでも高価なものが多く、学校や自治体で購入するにはハードルが非常に高い。本学は、より安価で購入できるパラスポーツ用品の開発を目指し、特にゴールボールで使用するボールの軽量化について検討した。

通常使われているゴールボール用のボールは、重さ 1250 グラムで、中に鈴が 2 個入っている。ところが本事業で小学生向けの体験会を行う際、特に小学校低学年の児童から「ボールが重い」、「真っすぐ投げたいが、投げられない（横にそれてしまう）」、「守る（セービング）する時にボールが体にあたると痛い」、「鈴の音が聞こえにくい」といった意見が寄せられた。そこで、ボールの円周はそのままに、重さを 1250 グラムから 900 グラムにし、（鈴の）音量を増すために鈴の数を 2 つから 4 つに変更した試作品（以下、軽量ボール）を作成し、体験会で活用することを検討した。

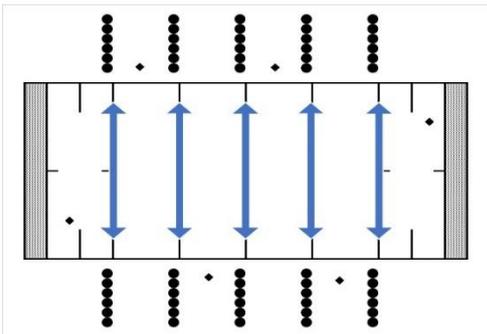
この軽量ボールの是非について、日本ゴールボール協会にヒアリングを行ったところ、「コーチがバウンドボールを投げ込む練習や、（力の無い）女子への指導に有効」、「軽量化した分、バウンドボールが弾みやすくなるため、それがどうゲームに影響するかを確認する必要がある」、「選手の発掘という面で、盲学校や視覚障がい（弱視）のある小中学生向けにも勧められるものになる」、「鈴が増えることで音もよく聞こえるので取り組みやすく初心者向けとしてよいのではないか」、「大会の運営において、児童の部といった選択肢が生まれる可能性がある」といったコメントを受けた。

試作品の軽量ボールを実際に小学生向けの体験会で使用したところ、児童生徒の積極性が高まり、試合のスピード感もアップした。今後は軽量ボールの使用を重ねながら、児童生徒や教職員へのヒアリングをさらにすすめ、日本ゴールボール協会の認定球としての承認や商品化に向けた準備をすすめる。

【資料】

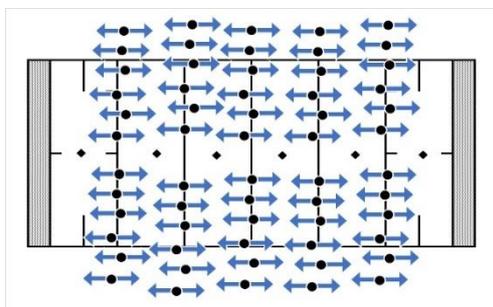
3 - 1	体験会資料	P 22
3 - 2	体験会アンケート用紙	P 27
3 - 3	指導書資料（ゴールボール）	P 33
3 - 4	指導書資料（ボッチャ）	P 43
3 - 5	プレスリリース等	P 56

○ボールを転がしてみる
列を作り、実際にボールを転がす。



- 2分
- ・声掛けに注目させる。
 - ・危険防止のため、ボールは足で止める。
 - ・ボールの回転を意識させる。
 - ・慣れてきたら強いボールを投げさせる。

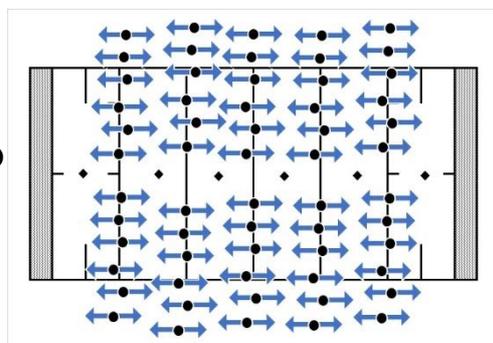
展開 ○セービングの練習
講師を中央に向かい合うように列を作り
セービングのフォームを指導する。



- 2分
- ・衝突しないよう十分に間隔を開けさせる
 - ・腕で顔を守れる、正しいフォームをとらせる。



○音に反応する練習
目を閉じさせ
両サイドのどちらかにボールを落とし、
音がした方へセービングさせる。



- 2分
- ・正しいフォームがとれているか確認する

①ゴールの設営



図. ゴールボールのゴール

- ・土台となる筒(図中1)を、ジョイントとボルトを用いて組み合わせる。
 - ・支柱(図中2)を用いて、1同士を組み合わせる
 - ・できたものに、ゴールサイド(図中3)を挟みこむ。
 - ・ネットをゴールのフックにひっかける。
- * 5～6人で設営するのが望ましい。

②コート設営



図. ゴールボールのコート

上の図を参考に、タコ糸を張り、その上からビニールテープで補強する。

サイドライン…18m、ゴールライン、センターライン…9m

オリエンテーションライン…長いものから、150cm(図中1)、50cm(図中2)、15cm(図中3)

*タコ糸は2～3mmのものを使用するのが望ましい。

*バレーボールの支柱をたてる時の穴などがあればビニールテープで補強する。

*ラインアウトラインはラインを引かなくて良い。

(参考)

<http://blog.goo.ne.jp/t-saiwai/e/d48319a2b5bb9478f36ca34d3d5baa8a>



b) ボッチャ競技の展開例

ボッチャ体験会 30 分版

0	内容	留意点	指導のポイント	備考
	約束	<ul style="list-style-type: none"> ・指示が出てからボールを拾う ・ボールを拾うとき、周りとはぶつからないように気をつける。 ・オンラインはペナルティ 		コートは赤ボックス、青ボックス、スローイングラインのT字のみでも良い。
2	ボールを投げる	1m程度のアプローチ	投げ方を参加者自身が考えて積極的に取り組むことができるように、質問のみに応える。	重量: 275g±12g 周長: 270mm±8mm
4	レクチャー: アプローチ	ボールの落とす位置の確認	投球フォームは特にこだわらない。 上投げ: 視線に近い位置でリリース。 下投げ: 手を振ってウイングの安定を図る。	
2	得点		得点のパターンを紹介する <ul style="list-style-type: none"> ・現状の得点 ・2点以上の得点 ・ボールが上に乗った場合 ・相手のボールを弾いて加点 ・ジャックを動かして加点 	
2	レクチャー: ヒット プッシュ	ボールの落とす位置の確認 リリースの高さ	アプローチが難しい技術であることを伝える 周りのボールの活用: クッション、壁	ロビングボールの紹介
5	試合	1m程度の真ん中で行う	状況に応じてルール説明をする <ul style="list-style-type: none"> ・試合の中で負けている方が投げる、投球順を説明する。 ・投げやすい位置にボックス内を移動していい ・計時と持ち時間内にボールに見に行行って良いことを伝える ・残り玉が多い方が有利であることを伝える。 ※フォームや技術ではなく、得点することを目標に取り組む	ボールの種類の紹介
10	試合(2エンド)	ジャックボールを投げ合う	戦術のパターンを必要に応じて伝える ※選手がいれば、一球サポートや戦術のアイデアを出してもらう	
	試合(2エンド)	正式コートで試合	Vゾーンの追加	戦術の紹介
		ボックスを分けて試合	スローイングボックスの追加	コートサイズの紹介

	知っている	聞いた ことがある	知らない
15. アンブティサッカー	1	2	3
16. パラ・アイスホッケー（アイススレッジホッケー）	1	2	3
17. クラス分け	1	2	3
18. クラシファイヤー	1	2	3
19. ガイドランナー	1	2	3
20. ランプ	1	2	3
21. コーラー	1	2	3
22. ストーク・マンデビル病院	1	2	3

Q4：次にあげることがらについて、あなたの考えに当てはまるものに○をつけてください。

	そう思う	少し そう思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	そう 思わない
1. 障害のある人はかわいそうな人だ	1	2	3	4	5
2. 障害のある人は障害のない人と同じような生活は難しいと思う	1	2	3	4	5
3. 障害のある人の中には特殊な能力をもった人がいる	1	2	3	4	5
4. 障害のある人を理解することは難しい	1	2	3	4	5
5. 障害のある人の身体能力は障害のない人より劣っている	1	2	3	4	5
6. 障害のある人がスポーツを楽しむことは難しい	1	2	3	4	5
7. 障害者スポーツは特別なスポーツである	1	2	3	4	5
8. 障害者スポーツは見るスポーツとしては面白くない	1	2	3	4	5
9. 障害のない人のスポーツとくらべて障害者スポーツではそれほど技術は必要ない	1	2	3	4	5
10. パラリンピックはオリンピックと比べるとレベルが低い	1	2	3	4	5
11. 障害のある人とは身体に何らかの不自由のある人のことをいう	1	2	3	4	5

Q5：今日の体験会はいかがでしたか？

1
2
3
4
5
1
2
3
4
5
1
2
3
4
5
1
2
3
4
5
1
2
3
4
5
1
2
3
4
5

1. 大学生が色々なスポーツを教えてくれることは、いいことだと思いますか？

1 — 2 — 3 — 4 — 5

2. 今日の体験会は楽しかったですか？

1 — 2 — 3 — 4 — 5

3. 大学生は頼りになりましたか？

1 — 2 — 3 — 4 — 5

4. 大学生はゴールボールについてよく知っていましたか？

1 — 2 — 3 — 4 — 5

5. 大学生の言葉遣いや身だしなみはきちんとしていましたか？

1 — 2 — 3 — 4 — 5

6. 大学生は皆さんの質問などにしっかり答えることができていましたか？

1 — 2 — 3 — 4 — 5

7. 大学生は困ったことがあったらすぐに助けてくれましたか？

1 — 2 — 3 — 4 — 5

Q6：今日の体験会の感想を書いてみましょう。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

一般用アンケート

この調査は、みなさんの障がい者スポーツやパラリンピックおよび障がい者に対する知識や意識、また順天堂大学に対するイメージを知り、本日の体験会の内容について検討するためのものです。
 答えていただいた内容については、個人が特定できないように統計的に処理し、外部に漏らすことは一切ありませんのでご安心ください。

問い合わせ：順天堂大学スポーツ健康科学部 NCAA事業推進ユニット
 sakura-mirai@juntendo.ac.jp

――はじめに、あなたご自身についてお聞きします。

F1:あなたは女性ですか？ 男性ですか。あてはまるものに○をつけてください
 1. 女性 2. 男性

F2:現在あなたは何歳ですか？ また現在のお仕事、および部署に就かれて何年になりますか？
 () 歳、 入職からの年数 () 年 現部署での経験年数 () 年

――次に、あなたご自身のこれまでの経験やお考えについてお聞きします。

Q1: これまであなたが障がい者スポーツと考えるものを体験したことはありますか？

1. ある 2. ない → それはなんでしたか？覚えていたら記入してください。()

Q2: これまであなたが障がい者スポーツと考えるものを観戦したことはありますか？

1. ある 2. ない → それは何でみましたか？ ()

Q3 あなたを含め、あなたのまわりには、障がい者とされる人々はいましたか？

1. いた 2. いない →
 1. 本人 2. 親族 3. 友人
 4. 職場の仲間 5. その他の知人

Q4: 下にある言葉を読んで、具体的に見たことがあったり、ルールを知っていたりするときには「1」に、言葉を聞いたことはあるが、詳しくは知らない場合は「2」に、知らないときは「3」に○をつけてください。

	知っている	聞いたことがある	知らない
1. オリンピック	1 ———	2 ———	3
2. パラリンピック	1 ———	2 ———	3
3. デフリンピック	1 ———	2 ———	3
4. スペシャルオリンピックス	1 ———	2 ———	3
5. 車椅子フェンシング	1 ———	2 ———	3
6. 車いすテニス	1 ———	2 ———	3
7. 車椅子バスケットボール	1 ———	2 ———	3
8. ボッチャ	1 ———	2 ———	3
9. ゴールボール	1 ———	2 ———	3
10. パラ・バドミントン	1 ———	2 ———	3
11. シットイングバレー	1 ———	2 ———	3

	知っている	聞いた ことがある	知らない
12. パラ・テコンドー	1	2	3
13. サウンドテーブルテニス	1	2	3
14. ブラインドサッカー	1	2	3
15. アンブティサッカー	1	2	3
16. パラ・アイスホッケー (アイススレッジホッケー)	1	2	3
17. クラス分け	1	2	3
18. クラシファイヤー	1	2	3
19. ガイドランナー	1	2	3
20. ランプ (勾配具)	1	2	3
21. コーラー	1	2	3
22. ストーク・マンデビル病院	1	2	3

Q5：次にあげることがらについて、あなたの考えに当てはまるものに○をつけてください。

	1	2	3	4	5
1. 障害のある人はかわいそうな人だ	1	2	3	4	5
2. 障害のある人は障害のない人と同じような生活は難しい	1	2	3	4	5
3. 障害のある人の中には特殊な能力をもった人がいる	1	2	3	4	5
4. 障害のある人を理解することは難しい	1	2	3	4	5
5. 障害のある人の身体能力は障害のない人より劣っている	1	2	3	4	5
6. 障害のある人がスポーツを楽しむことは難しい	1	2	3	4	5
7. 障害者スポーツは特別なスポーツである	1	2	3	4	5
8. 障害者スポーツは見るスポーツとしては面白くない	1	2	3	4	5
9. 障害のない人のスポーツとくらべて障害者スポーツではそれほど技術は必要ない	1	2	3	4	5
10. パラリンピックはオリンピックと比べるとレベルが低い	1	2	3	4	5
11. 障害のある人とは身体に何らかの不自由のある人のことをいう	1	2	3	4	5

Q6：順天堂大学のイメージについてお聞きします。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| a. 教育機関としてのビジョンがある | k. スポーツ活動に熱心に取り組んでいる |
| b. 各界に多数の人材を輩出している | l. 在学中の資格取得に積極的である |
| c. 教授陣に魅力がある | m. 他大学にはない魅力がある |
| d. 就職状況が良い | n. 研究等に使用する施設が充実している |
| e. 伝統や歴史を重んじている | o. 留学生の受け入れが活発である |
| f. 学部、学科が充実している | p. グローバルである |
| g. 立地が良い | q. 国際交流が活発である |
| h. 広報活動に力を入れている | r. 地域産業に貢献している |
| i. ロゴ、カラーが思い浮かぶ | s. 地域社会・文化に貢献している |
| j. キャンパスに活気がある | t. 地域教育に貢献している |

1：あなたが現在、順天堂大学取り組みについてよくイメージするものを上記から4つ選んでください。

--	--	--	--

2：あなたが現在、順天堂大学取り組みについてイメージできないものを上記から4つ選んでください。

--	--	--	--

3：あなたが今後、順天堂大学の取り組みとして期待するものを3つ選んで○をつけてください

- | | |
|-------------------|------------------------|
| a. 児童・生徒向けのスポーツ指導 | g. オリンピック選手の輩出 |
| b. 児童・生徒向けの健康指導 | h. スポーツ科学の先端的研究 |
| c. 成人への体カトレーニング | i. スポーツ科学の知識の普及 |
| d. 成人への健康指導 | j. 学生を主体としたスポーツによる地域貢献 |
| e. 高齢者むけの健康指導 | k. 研究を通じて地域の教育力を上げる |
| f. (学業) 優秀な学生の輩出 | l. スポーツでの学生と地域児童生徒の交流 |

Q7：順天堂大学のパラスポーツ推進の取り組みや本日の体験会についてお聞きします。

少し どちらとも あまり そう
 そう思う そう思う いえない 思わない 思わない

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 順天堂大学がパラスポーツの推進に取り組んでいることは地域にとって良い影響がある。 | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| 2. 今日の体験会は全体的に満足している | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| 3. スタッフの対応は安心感があった | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| 4. スタッフのゴールボールの知識・専門性は十分なものだった | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| 5. スタッフの言葉遣いや身だしなみは適切だった | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| 6. スタッフは参加者の質問などにしっかり答えることができていた | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| 7. スタッフの対応は素早く行われた | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |

Q8：ご意見・ご感想やお気づきの点があればお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。